

令和元年度 東京運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

- 日時：令和元年12月6日（金）14:00～16:00
- 場所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」7階イベントホール
- 議事：○バリアフリーの現状と関東運輸局の取り組みについて
 - 関東地方整備局のバリアフリーの取り組みについて
 - 公共交通におけるバリアフリーの取り組みについて
（小田急電鉄株式会社、東京都交通局（都営バス））
- 意見交換等

委員

（敬称略）

- <座長> 森本 章倫（早稲田大学 理工学術院 教授）
小西 慶一（公益社団法人 東京都身体障害者団体連合会 会長）
有山 一博（公益社団法人 東京聴覚障害者総合支援機構
東京都聴覚障害者連盟 福祉対策部長）
笹川 吉彦（公益社団法人 東京都盲人福祉協会 会長）
伊東 とも子（社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
東京都手をつなぐ親の会 研修部会長）
柴崎 金勝（公益社団法人 東京都老人クラブ連合会 副会長）※欠席
栗原 孝実（一般社団法人 東京精神保健福祉士協会 理事）

参画（委員以外）

【施設設置管理者等】バス事業者14者、鉄道事業者10者 【関係協会】一般社団法人東京バス協会、一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会、
【関係行政機関】警視庁、区市町村31者、関東地方整備局、関東運輸局

バリアフリーの取り組み等

小田急電鉄株式会社：バリアフリーへの対応（駅舎、ホーム）、駅係員による対応強化、お客様への情報提供 他
東京都交通局（都営バス）：都営バスのバリアフリーの取組（ハード、ソフト）、災害時の対応、東京2020大会での対応 他

会議での発言（委員より）

- ・ 聴覚障害者に対するバリアフリーの対応が少ない気がするので、きちっとした対応をお願いしたい。筆談具の常設はいい取組みだと思う。ぜひ普及促進して欲しい。
- ・ 車いすで移動する人は、災害時では車いすは雨に弱く大変危険。地震の時もエレベーターが使えず自宅待機を強いられるなどがある。自衛はしているが、近年の災害状況を考えると不安を感じる。
- ・ エレベーターを車いすに乗って利用すると狭隘となることがある。なんとかしてくれるとありがたい。
- ・ 台風時、高齢者や聴覚障害者は避難したいけどできない。タクシーを呼ぶ手立てもなかったなので、検討して欲しい。
- ・ 区市町村でのバリアフリー基本構想策定の際、障害者の参画による意見が反映されづらいと聞いているので、積極的に働きかけてもらいたい。
- ・ 交差点で、信号機のチャイムとバスの右左折のチャイムが同時に鳴ることに戸惑いを感じる。また、最近は駅などでよく声かけいただき、サポートをしていただいているが、誘導のやり方がわからないという方が多いと感じるので、そういった研修や教育の機会を充実して欲しい。
- ・ 知的障害を持っている方が割引を受けるとき、愛の手帳の提示などはハードルが高い。ICカードに割り引き情報を組み込んで乗車できるシステムを構築して欲しい。（複数の委員からも同意見あり）
- ・ 音響式信号機は普段鳴っているが深夜鳴らないというのは判断が難しい方もいる。住民の方との折り合いもあると思うが、迷惑にならない程度の音量ということでお願いしたい。
- ・ 精神障害をお持ちの方に対しては、他の障害をお持ちの方と比べてサービスの幅の狭さを感じる。手帳をじっくり見られるのが苦痛に感じた。

令和元年度 茨城運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要

開催概要

＜主催：関東運輸局茨城運輸支局＞

- 日時：令和2年2月3日（月）14:00～16:00
- 場所：つくば市役所 コミュニティ棟 1階会議室
- 議事：
 - ・国におけるバリアフリーの取り組み（関東運輸局、関東地方整備局）
 - ・つくば市庁舎のユニバーサルデザイン（つくば市財務部管財課）
 - ・講演「車いすアスリートから見たバリアフリー」
（スピニング・フープス・レボリューション 代表 齋藤信之氏）
 - ・意見交換

委員

（敬称略）

- ＜座長＞
- 山田 稔（茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学領域 教授）
 - 伊藤 達也（公益財団法人 茨城県老人クラブ連合会 会長）
 - 沼尻 由美（茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 理事）
 - 君山 誠（社会福祉法人 茨城県視覚障害者協会 理事）
 - 上田 和英（一般社団法人 茨城県聴覚障害者協会 福祉委員長）
 - 高松 秀彦（一般社団法人 茨城県心身障害者福祉協会 理事）
 - 塚本 武志（一般社団法人 茨城県精神保健福祉会連合会 理事）
 - 井寺 弘孝（茨城LD等発達障害親の会 星の子 代表）
 - 高松 志津夫（NPO法人ウィラブ北茨城 代表 / 地域公共交通マイスター）
 - 齋藤 信之（スピニング・フープス・レボリューション 代表）

参画(委員以外)

【施設設置管理者等】東日本旅客鉄道(株)水戸支社、首都圏新都市鉄道(株)、ジェイアールバス関東(株)土浦支店、関東鉄道(株)、関鉄グリーンバス(株)、関鉄パープルバス(株)、大利根交通自動車(株)、茨城県バス協会、茨城県ハイヤー・タクシー協会 【関係行政機関等】茨城県、茨城県警察本部、つくば市、土浦市、取手市、阿見町、稲敷市、牛久市、龍ケ崎市、利根町、石岡市、かすみがうら市、つくばみらい市、守谷市 【その他】関東地方整備局、常陸河川国道事務所、関東運輸局、茨城運輸支局

講演

- 『車いすアスリートから見たバリアフリー』（車いすバスケットボールチーム「スピニング・フープス・レボリューション」代表 齋藤信之氏）
- ・単身アメリカに渡り車いすバスケットボールの選手として活躍した経験を基に、日本とアメリカとの間での「障害」や「バリアフリー」の捉え方の違いや、車いすバスケットボールなど一般市民との交流を通じた障害への理解促進等について解説。

バリアフリーの取り組み等

- 【つくば市】「つくば市庁舎のユニバーサルデザインについて」
- ・「つくば市ユニバーサルデザイン基本方針」に基づき「人にやさしい庁舎」を目指して設計された市庁舎の特徴、及びその継続的な改善について紹介。

会議での発言(委員より)

- ・高齢者は、自分では元気なつもりで意識していなくても、数ミリの段差でつまづいてしまうことがあり、そういったものを防ぐということも考えていただきたい。
- ・車いす仕様の車両は普通の駐車場ではとても停め辛く、車いすの出し入れに不便。また、公園の石畳やショッピングセンターの絨毯敷きの床は、車いすが非常に押し辛い。ベビーカーもそうだと思うが、分かっていたらきたい。
- ・先日も県内で視覚障害者が駅のホームから転落する事故があった。慣れている駅でも体調や風によって音の聞こえ方が違い、電車がホームに停まっていると勘違いしてしまうことがある。ホームドアの設置、駅の案内、周囲の見守り・声掛けなど、理解を深めていただきたい。
- ・茨城県は手話言語条例によって手話の普及が進められているが、まだまだ。聴覚障害の理解のため、少しでいいから、手話に興味・関心をもってほしい。
- ・知的障害や発達障害は目に見える障害ではなく、コミュニケーションをとろうとしてはじめて気が付くものでもあるので、心のバリアが大きなハンデになっている。心のバリアをとっていくためには、サポートする側も社会に出て行って理解してもらおうよう努めなければならないと思う。
- ・精神障害は、身体障害や知的障害に比べて救済の措置が遅れているという実態がある。差別の解消にはまだまだこれから。
- ・昨年、「ヘルプマーク」について話したところ、県が普及を推進してくれた。障害のある人が社会に出た際にトラブルを防ぐためにも、ヘルプマーク普及のさらなる推進をお願いしたい。
- ・「障害」ではなく、みんな一緒だけれども「違い」があるということを確認したうえで、何をサポートできるのかを考えていくことが必要ではないか。

神奈川運輸支局バリアフリーネットワーク会議 概要 令和元年度

開催概要

<主催：関東運輸局神奈川運輸支局>

- 日時：令和2年2月5日（水）15:00～17:00
- 場所：神奈川県トラック総合会館7階大研修室
- 講演：横浜国立大学副学長・教授 中村 文彦 氏
京浜急行電鉄株式会社 グループ戦略室 IT戦略担当
担当課長 高橋 淳 氏
全日本空輸株式会社 企画室 MaaS推進部
Universal MaaSプロジェクト推進担当 大澤 信陽 氏
- 意見交換：講演、各委員からの意見・提案に関する意見交換
- 情報提供：関東運輸局消費者行政・情報課
関東地方整備局広域計画課

委員

(敬称略)

- 中村 文彦 (横浜国立大学 副学長・教授) 〈座長〉
- 金子 晴由 (公益財団法人横浜市老人クラブ連合会事務局次長)
- 戸井田 愛子 (公益財団法人神奈川県身体障害者連合会会長)
- 鈴木 孝幸 (特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者福祉協会 会長)
- 河原 雅浩 (公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 事務局長)
- 坂田 信子 (横浜市心身障害児者を守る会連盟事務局長)
- 吉富 多美 (認定特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド理事)
- 清水 弘子 (特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク理事長)

参画(委員以外)

- 【施設設置管理者等】鉄道事業者8者 バス事業者9者 タクシー事業者5者
- 【関係団体】一般社団法人神奈川県バス協会、一般社団法人神奈川県タクシー協会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部
- 【関係行政機関等】神奈川県、神奈川県警察本部、神奈川県内各市町村、関東地方整備局、関東運輸局

講演

「ITの活用によるバリアフリー化への期待」

【横浜国立大学 副学長・教授 中村 文彦 氏】

「『Universal MaaS～移動をあきらめない世界へ～』の取組み」

【京浜急行電鉄株式会社 グループ戦略室 IT戦略担当 担当課長 高橋 淳 氏】

【全日本空輸株式会社 企画室 MaaS推進部 Universal MaaSプロジェクト推進担当 大澤 信陽 氏】

バリアフリーの取り組み等

『かれんタクシー』

【主催】一般社団法人 神奈川県タクシー協会／特定非営利活動法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク 【協力】神奈川運輸支局

【趣旨】UDタクシーの導入及びUDドライバー研修を実施しているが、知的障害児者への対応は十分な実績をつくるには至っていない。

障害当事者家族、事業者などとの意見交換を行い、中間支援組織が介在することでタクシー事業者の福祉対応への意識向上と、利用者が安心して利用できる環境整備に具体的に取り組んでいく。

【最近の取組】利用登録は横浜市を中心に60件、障害当事者家族向けにUDタクシーの試乗会を実施

会議での発言(委員より)

- ・情報は的確な形で入手できる環境が必要であり、そのためにはハード面の整備も必要なため、時間がかかる。周りの人がどれだけ手助けできるか、心のあるバリアフリーがこれから必要になると思う。
- ・交通の乱れなどの情報は聴覚障害者には入手しづらい。駅での放送を文字に変換するような音声認識の技術がもっと普及してほしい。
- ・UDタクシーを見かけることが増えた。一方で乗車拒否をされたという話も聞いた。
- ・タクシーではなく、福祉有償運送など他のサービスが適しているケースであってもケアマネージャーや相談員の方がそういった情報を知らないことが多い。いろいろな方法があるということについて、情報の発信に工夫が必要。